

令和 8 年度

岡山学芸館清秀中学校

B 日程入試

国 語

(45 分)

【注意事項】

1. 問題は 1 ページから 13 ページまであります。
2. 受験番号、および解答はすべて別紙の解答用紙に記入しなさい。
3. 問題用紙に解答を書き込んでも採点されません。
4. 「開始」の合図があるまで問題用紙は開いてはいけません。
5. 「終了」の合図で筆記用具を置き、監督の先生の指示に従いなさい。

1

次の——線部の漢字をひらがなに、またカタカナを漢字に直しなさい。

A 実が熟す。

B 縮尺を示す。

C 二東三文で古本を売りはらう。

D 救いの手を差しのべる。

E 勇む心をなんとかおさえる。

F ジョセツ車を運転する。

G 子どものツミのない寝顔。ねがお

H セイコウドクの暮らし。

I ヘリコプターをソウジユウする。

J 自分にはニが重い仕事を任される。

2

次の□に当てはまる漢字一字を例にならって考え、記しなさい。

例

岡 ↓ □ ↓ 脈
登 → □ → 道

答…「山」

A

家 ↓ □ ↓ 根
小 → □ → 上

B

野 ↓ □ ↓ 原
雑 → □ → 花

C

竹 ↓ □ ↓ 車
木 → □ → 力

D

箱 ↓ □ ↓ 先
家 → □ → 園

E

遠 ↓ □ ↓ 音
補 → □ → 首

3

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A 動物では体内の状態が二四時間の周期で変化しています。これを「サーカディアン・リズム（概日リズム）」と呼んでいます。地球が一日二四時間の周期で変化していることに、動物の体内の状態がほぼ同期しているのです。これは、動物が厳しい自然環境下で生き残る上で、環境の変化に体調を合わせて生きることが必須であったためと思われる。実際、動物には体内に時間を測る遺伝子があり、およそ二四時間周期で体内変化が起こるよう遺伝的に刷り込まれているのです。

（中略）

人間には、さらに時間を測る神経回路があるとされて研究が進められています。X、私たちが翌朝早く起きねばならないとして目覚まし時計をセットして寝るのですが、どういふわけか目覚まし鳴る直前に自然に目を覚ましてしまうことがあるのを経験された人も多いのではないのでしょうか。緊張感から自律神経が鋭敏になっているのだろうと思いますが、そのためには神経回路に時間を測る機構がなければなりません。ほぼ目的の時間に目が覚めるのは、神経のどこかで時間を測っているに違いないと思われるためです。

一方、植物は一年という時間の長さによる環境変化を感じており、それは代々受け継がれ、長い年月に渡って繰り返されています。決まった季節に開花し、受粉によって次世代の実や種を生み育て、それが受け継がれるという生活史の根底において、植物が時間を感じていることは確かです。太陽光の強さや昼夜の長さの変化を測ることで、自らの生理変化の時期を決めているのです。例えば、冬の盛りから春にさしかかるにつれ、梅・桜・桃の順で開花していきますが、これらは冬の温度変化を測定しているに違いありません。花が咲くべき時期を、温度センサーによって冬の寒さの変化として捉え、その温度変化に応じて咲くべき時期を決めているのです。

梅は気温が下がり始めた時期をキャッチするとさっそく開花する準備を整え、やがて開花していく花です。桜は最低気温となるまで待ち、気温が上昇し始めたときになってから咲き始めます。もともと、一度ずいぶん寒くなってから気温が上昇し、その後気温がもつと下がる必要があります。最初の寒期を最低気温だと誤認して桜が開花し、その後の寒期で、せっかくの花が萎れてしまう「桜の狂い咲き」も起こります。桜の時間の測定が、外気温という変動する不安定な指標に依存しているためなのでしょう。桃も同様なのですが、桜より遅れて暖かさが確実にになってから開花しているようです。地球温暖化で、冬の寒さの温度が最低になる時期が早くなり、これに応じて桜の開花日がどんどん早くなっています。

Y、夏の朝に咲くアサガオは日中の明るさの変化を感じするセンサーを持っており、夏至を過ぎて夜間の時間が昼間の時間より長くなれば開花することが経験的に知られていました。このような日照時間がある一定以下になったら咲く花はコスモスやキクなどいくつかあり、「短日植物」と呼ばれています。しかし、よくよく調べてみると、夜の長さが九時間以上になったら花が咲くことがわかり、C「短日」ではなく「長夜」植物であることがわかってきました。植物は日光を浴びて育ちますから、私たちはつい日が照っている時間に注目するのですが、そうではなかったのです。昼間が短いとは夜間が長いわけですから、暗闇にある間に花芽を形成するホルモンを蓄積し、やがてある量を越すと開花するというこのよ

うです。アサガオもそうだったのです。人工的に光を当てる時間を変化させてみた場合と、逆に暗闇のなかにおいてその時間を変えてみた場合の、生成されるホルモン量を比較^{ひかく}することで、暗闇の時間に敏感に反応することがわかったのです。

秋になると木々の葉は紅葉したり、枯^かれたりして、やがて D 枝から落ちていきます^(注8)。夏の間は強い日光を受けて葉の葉緑素の部分で光合成^(注9)を行って栄養分を生産していたのですが、秋になると太陽光が弱くなり、葉では栄養分を作るより、生きていくために栄養分を使う方が多くなります。そうになると、本体の木々にとって葉は栄養分を消費するばかりの厄介者^{やっかいもの}になりますから、切り捨てようとしています。それが「アポトーシス」という現象で、葉と小枝をつなぐ部分の細胞^{さいぼう}において、あたかも自ら死を選んだように、遺伝子の働きによって水や栄養分が流れ込まなくなるのです。そもそもアポトーシスとはギリシャ語で、「枯れ葉などが木から落ちる」という意味があります。植物学用語のアポトーシスは、決まった時期に決まった場所^(注10)で細胞死が起こるという過程のことで、「プログラムされた細胞死」と呼ばれています。むろん、細胞死が起こる条件があり、木々の葉に備わったセンサーによって周囲の温度と日光の強さの変化を測っているのです。近年では地球の温暖化のために、秋になって日光が弱くなっても外気温が高いのでアポトーシスが働く紅葉の時期がずいぶん遅れるようになっていきます。

まとめると、植物は外気温を測定するセンサー、日照時間（あるいは夜間の時間）を測るセンサー、日光の強さの変化を感知するセンサー、などを備えて季節の移り変わり（時間変化）を感じ取り、その情報に応じて自分の生き方を調節しているのです。これらは植物が持つ生物時計と言えるでしょう。

このように、動物も植物も、それぞれの生き残り戦略として時間を測定していることがわかんと思います。生物は、有限の時間しか生きられないからこそ、あるいは有限の時間で必ず死を迎える^{むか}からこそ、いつも時間を気にしながら生きているのかもしれない。

（池内了^{いけうちさとし}『科学知』と「人間知」を結びつけるために——わたしの最終講義』による）

注1 同期…ここでは、複数のことがらが連動すること。

注2 遺伝子…生物の細胞の中にある、さまざまな性質を祖先や親から子孫へ伝えるものになるもの。

注3 自律神経…本人の意思とは関係なく、内臓や血管などを自動的に調節する神経。

注4 生活史…生物の個体が発生してから死ぬまでにおける、全ての生活過程。

注5 生理変化…生きるために必要な体の働きの変化。

注6 花芽…大きくなって花になる芽。

注7 ホルモン…体中の器官に運ばれて、各機能を調節する物質。

注8 葉緑素…植物の葉にふくまれている、色を発するものになる緑色の物質。

注9 光合成…植物が、光を利用して、水と二酸化炭素から栄養分を作る働き。

問1 本文中にある X・Y に当てはまる言葉を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① つまり ② 一方 ③ では ④ それとも ⑤ 例えば ⑥ なぜなら

問2 ———線部A「動物では体内の状態が二四時間の周期で変化しています」とありますが、動物の体内の状態が、地球と同様の周期で変化しているのはなぜだと考えられますか。その理由について説明した次の記述の I・II に当てはまる言葉を本文中から抜き出して埋め、説明を完成させなさい。なお、空欄内の数字は字数を表しています。(句読点や記号は一字とします。)

I 八字

において動物が生存するためには、

II 十六字

ことが必要であったから。

問3 ———線部B「咲くべき時期」とありますが、花の咲く時期についての説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 梅は、一年間の中で最も気温が低くなったことが感知されると、開花に向けた準備を始める。
② 桜は、最低気温となるまで開花を待ち、最低気温が何日か続いたことが確認された段階で開花を始める。
③ 桜は、何度か寒期があった場合、最低気温となる時期についての判断を誤り、狂い咲きを起こすことがある。
④ 桃は、梅や桜とは異なり、開花時期が外気温という変動しやすい指標によって左右されることはない。

問4 ———線部C『短日』ではなく『長夜』植物である」とはどういうことですか。それについて説明した次の記述の i・ii に当てはまる言葉をそれぞれ自分で考えて、i は五字以上、一〇字以内で、ii は二〇字以上、二五字以内で埋め、説明を完成させなさい。(句読点や記号は一字とします。)

アサガオは、i であるかどうかに関わらずに開花が左右されるのではなく、ii の量が、ある量に達すると開花する植物であるということ。

問5

線部D「枝から落ちていきます」とありますが、秋に葉が枝から落ちる仕組みについて、次のようにまとめました。

(1)

(8)に当てはまる言葉として適切なものを後から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号は何度でも選べます。

夏…日光が(1)。

葉では、光合成の働きにより栄養分が(2)される。

秋…日光が(3)。

葉における栄養分の(4)量が(5)量を上回る。

↓(6)にとって、葉はじやまになる。

↓(7)をつなぐ部分の細胞に、水や栄養分が流れ込まなくなる。

↓葉が枝から落ちる。

※葉に備えられた、(8)と日光の強さの変化を測るセンサーの働きによって起きる。

- | | | | |
|---------|---------|-------|-----------|
| ① 周囲の温度 | ② 本体の木々 | ③ 弱まる | ④ 空気中の水分量 |
| ⑤ 消費 | ⑥ 強まる | ⑦ 生産 | ⑧ 葉と小枝 |

問6 この文章の内容と合っているものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ① 地球温暖化が進んだことにより、冬の寒さの温度が最低となる時期が遅くなり、桜の開花日を予測するのが難しくなっている。
- ② 植物は、さまざまなセンサーを備えることで時間の変化を感知しており、その情報に合わせて生き方を調節している。
- ③ 動物も植物も、それぞれの生き残り戦略として時間を測定しているが、測定の精度は植物よりも動物の方がすぐれている。
- ④ 人間がほぼ目的の時間に目覚めるのは、時間を測る機構が神経のどこかにあるからだという説を、筆者は否定している。
- ⑤ 動物は、約二四時間周期で体内の変化が生じるようになっており、植物は、一年という時間の長さによる環境変化を感知している。

4

次は、吉野万理子『やなやつ改造計画』の一節である。海乃島学園中学校の写真動画部に所属する三年生の京座木光也は、市議会議員の伯父の影響で、生徒会長に立候補した。光也は、クイズ研究会に所属するモリリ、写真動画部のヤナギにアドバイスをもらいながら、当選に向けて準備をしていた。その中でモリリは光也に「選挙で当選するためには、性格を変えて、みんなからいい人だと思われればよい」と伝えた。選挙当日、立候補者である光也、小笠亜貴、平野賢哉は、立会演説会で、「学校の近所で起きた、犬が路上に置かれた毒入りのエサを食べたという事件について対策はあるか」と一年生から質問された。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「はい、じゃあ、^A 順番に答えてもらいましょう。京座木さん、何度もうなずきながら聞いていたようですが、どうですか？」
いきなり、おれ？

今までずっと、立候補順で、小笠↓平野↓京座木の順番だったので、油断していた。

光也はマイクを持った。

「えーと、その事件、もちろん知ってます。ちよつと調べました。毒エサがまかれていたのは三ヶ所で、不審な白い車が目撃されていたので、外部の人間がここに立ち寄ったのではないか、と言われています。毒エサって、非常に気味が悪くて、街の治安全体に関わることだと思うんで、そのー、えつと……」

どうまとめればいいのか。

「えつと、おれたちは小学生くらいの頃は、街に守られてるとこ、あつたと思うんです。帰りに横断歩道を渡るのに、見守りの人がいてくれたり。あれから年を重ねて、今度はおれたちが街を守ってもいいんじゃないか。おれが選ばれたら、自治会の人と連絡を取って、必要があれば生徒たちで有志を募って放課後にパトロールするとか、そんなのもありじゃないか、って思います」

^a まばらな拍手が起こつた。

なんか、的外れの答えだったかも。

そう思いながらモリリのほうを見たら、力強くうなずいてくれている。よかった。

「あ、手が挙がつてますね。では小笠亜貴さん」

と、選挙管理委員長の尾関さんが指名した。

「あのー、言わせてもらつていいですか？ わたし、そういう^b 場合の^c ぎで適当なこと言う人つて嫌いなんですよね」

来たつ。全校生徒の前でおれを落とす攻撃。さすが、やなやつのボスだけある。光也は敢えて笑みを浮かべながら見返したが、顔がこわばりそうだった。

「外部のことは生徒会の仕事ではありません。そんなこと言つたら、近所に泥棒が入つたら、火事が起きたら、全校生徒が街を守るために動員されなくてはいけないんですか？ そんなの有志の人がやればいい。ええ、手を挙げてくれたあなたが、率先して声をかけたらいい。生徒会は学校内外の雑用をするお手伝い係じゃないんです。決まった事務をやつて、次の代に引き継ぐのが仕事です。要望があつたらなんでも請け合ふという姿勢は、ズレてると思うし、生徒会長が余計なことに首を突っ込むと、副会長や書記や会計といった生徒会メンバーが困るわけなんです。わたしは思い付きで、周りに迷惑をかけるような生徒会長にはなりたくないと思つています。つまり、質問の件に答えると、それはやるとしても校内のボランティアでやることで、生徒会とは違うジャンルだという

ことです」

うっ。光也は、頭を両手で抱えなくなるのをこらえた。あんたはバツです、とはっきりダメ押しされてしまった。

「小笠さんに聞きたいんですけど」

さっきの一年生がまた立ち上がった。

「なんでしょう」

「校内のボランティアでやるとしたら、そこに小笠さんは参加しますか」

小笠重貴は瞬時も迷わない。

「生徒会長になったら、そちらが忙しいのでやりません。選挙に落ちて、だれかに参加してって頼まれたら、そうね、そのとき考えます。わたしは他にやりたいことがたくさんあって忙しいので」

一年生は光也のほうを見る。

「京座木さんは？」

「おれは参加します。友達も、犬がかわいそう、ってとても怒ってたの。おれの周りは何人かいっしょにやると思います」

尾関さんが、平野の方を向いた。

「じゃあ、平野さんは？」

「おれ？ おれはね、猫派」

そう言うと、平野はVサインをしてみせる。講堂の中に笑いが広がった。

「あとおれも、安請け合いキャラはパスだな」

結局おれ、やっぱりズレていたのかも、と光也はうなだれなくなり、なんとかこらえた。壇上で敗北宣言をするわけにはいかない。

「これにて立会演説会は終了します。それではこのまま投票に移りたいと思います。準備をするので少しお待ちください」

いよいよ運命の時が来た。

海乃島学園中学校の投票は本格的だ。^(注)入江市から、投票箱やパーティションを借りて、本物の選挙のように進行する。

生徒は、ステージ右側の階段の下で投票用紙を受け取って、壇上に行く。一つの長机が三つのパーティションで仕切られていて、四人が同時に書ける。その長机が三つある。終わると、その紙を投票箱に入れる。さっそく一年一組の人たちが上がり始めた。終わった人から教室へ戻る。

待っている人たちは当然ヒマで、ざわざわしている。モリリは二列前に座^{すわ}っていて、となりの女子とおしゃべりしていた。光也の周りも、雑談しているのだが、立候補者には気を遣^{つか}っているみたいで話しかけてこない。

いよいよ誰か^{だれ}が選ばれる。結果は、明日の朝、ホームルームの時間に校内放送で発表される。

光也はふつと現実に戻った。選ばれるのが自分だとは、とうてい思えなかった。小笠か平野のどちらかだ。やっぱり小笠じゃないだろうか。「やなやつだけ魅力的」と、モリリが前に言ったのを思い出す。カッコ悪くない負け方をしたいなあ、何票くらい取ればカッコ悪くないかなあ……。そんなことをB^B考えていた。

七百二十票だから、せめて百票超えていたら、見栄え悪くないだろうか。二桁^{けた}だときついな、と光也は思う。写真動画部のメンバーが入れてくれたら、それだけで三十票近くになるけれど、おれに入れる義理、ないよな……。

一年生の投票が終わって、二年が続き、C^Cついに三年になった。光也の前方にいる三年一組が立ち上がった。^(注)秋山葵が振り返って、光也の方を見る。ニコ、と笑ってくれた。心に絆創膏^{ばんそうこう}を貼^はってもらった気がして、かすかに光也はうなずいた。

平野のいる三年二組、そして三組、四組の番が回ってきて、ヤナギが投票しているのが見えた。

ありがたいな、とその背中に向かって、心の中で光也はお礼を言う。終わったら、当選してもしなくても、打ち上げをやらなきゃな。

いよいよ六組の番が来た。^(注3)性格分析官^{ぶんせきかん}が前を歩いている。そういえばさつきみんながざわざわしていたとき、彼女の話し声^{かしのこゝろ}を聞かなかった。光也と同じように緊張^{きんちやう}しているのかもしれない。お疲れ、と心のなかで声をかけた。スルーされそうだから、あくまでも心の中だけで！

光也は階段の下で紙を受け取った。壇上^{だんじやう}に行つて、鉛筆^{えんぴつ}を手に取り、投票用紙に書き込む。京座木光也。紙を二つ折りにして投票箱に落とした。

「お疲れさまです」

パイプ椅子^{いす}に座っている選挙管理委員に言われた。ごく事務的な挨拶^{あいさつ}なのだが、光也の頭にはその言葉が響^{ひび}いた。そうだよ、本当にお疲れさまだ。本当に本当に終わったんだ――。

放課後、モリリはクイズ研究会の臨時ミーティングがあつて、ヤナギは家の用事があつた。

だからひとりで帰つたのだが、途中で二回コケそうになつたし、家の近くのコンビニで棒付きのアイスを買つたら、地面に落としてしまつて二つに割れたし、縁起^{えんぎ}の悪いことだらけだった。

伯父さんには選挙の話をしたわりに、親にはまったく話してなかったの^cで、何食^{なんじく}わぬ顔^{かほ}をして過^{あや}ごし、いまいち眠^{ねむ}れない夜を乗り越え、次の日、学校へ向かつた。

頭はぼんやりしているのに、胃がきりきり痛くなってくる。生徒会長でこんな状態なら、市議会議員なんて絶対に立候補しないほうがよさそうだ。

いつもより遅い電車に乗つて、チャイムぎりぎりに教室へ着くように計算した。うまくいった。

教室に入つて、モリリがこちらに向かって手を振ってきたとき、チャイムが鳴った。先生が入ってくる。

「今日、誰か欠席の者はいるかな」

いつも通りの会話。それをさえぎるように、校内放送が始まつた。

「こちら、選挙管理委員会です。昨日の生徒会長選の結果を発表します」

光也の心臓が、体から脱出^{だつしゅつ}するかも？ という勢いでバクバク動く。ちらつと前を見ると、性格分析官は左手でしきりに髪^{かみ}をなでている。それが落ち着かないサインなのか落ち着いているサインなのか、光也にはわからない。

「第八十九代生徒会長に選ばれたのは、得票数三百四十五票」

そんなに入つたのかよ、一位は。

「三年六組」

なんだと？ 小笠亜貴なのか？ もしくは……。

「京座木光也さんです」

「え？」

光也の背中が、肩^{かた}が、誰かに叩^{たた}かれている。拍手が鳴り始めた。モリリがこつちを向いてガッツポーズしている。

まさかそんな。

「おう、うちのクラスから生徒会長が出たか。いいことだな。京座木、ひとこと挨拶しろ」

担任の先生に言われて、光也はその場で立ち上がった。

「ありがとうございます。よろしくお願いします」

「うわ、平凡^{へいぶん}の極^{きわ}み」

性格分析官の小声の突つ込みが聞こえた。

場所こそいつもの市立図書館地下カフェだが、いつもと同じではない。せっかくの打ち上げだ。光也は、発売されたばかりのポテトチップス「フリフリチキン味」をひと袋、スーパーで買って持ってきていた。この店はドリンクさえ買えば、持参したお弁当やおやつを食べてもいいのだ。

「これ、前に買って食べたなら、マジでうまかったから！」

みんなに熱く勧めながら、ひとりにひと袋ずつ買ってくればよかった、おれってケチだったか、と密かに反省した。

でもそういう不満は出なくて、ヤナギは、

「うつまあーい。クセになる」

と、パリパリ口に運び、モリリは、

「フリフリチキンってハワイの名物だよね？ 鶏の丸焼き」

と、クイズ研究会らしく知識を披露している。

光也はもごもと言った。

「おかげさまで、いろいろと」

もつとちゃんと札を言えよ、と、マナーに厳しい人なら怒るかもしれない。でも、こいつらなら多分わかってくれる、と光也は思った。以前のおれだったら、「おかげさまで」という言葉すら、絶対に口にしなかっただろう、と。

「いやー、すごかったよねえ。光也の名前が放送で呼ばれた瞬間、わたし、しゃっくりが始まっちゃったもん」

モリリが言うのと、ヤナギはテーブルをばんばん叩くふりをした。

「わっかるー。あり得ねえ。いまだにあり得ねえと思ってる」

「実はおれもあり得ねえと思ってる」

ぼそつと光也が言うと、モリリがちつつと人差し指を左右に動かし

た。

「なぜ、光也が当選したか。謎を前にしたら、クイズ研究会は解かずにはいられませんか！ わたくし、さっそく調べてきました」

「調べた？」

「みんなの声を聞いたんだ。D 勝因は『犬』だったらしいよ」

「へっ？」

「昨日の立会演説会、一年生の子が質問したでしょ？ 毒入りのエサを食べた犬の事件」

「ああ、うん。え、おれの返事がよかったってこと？ 小笠亜貴にはボコボコにされたのに」

正直、光也は後悔していたのだ。小笠は、これは生徒会の問題ではないと言い切り、平野に至っては「猫派です」で終わらせてしまった。

ぐちゃぐちゃと語ったおれは、ウザいやつでしかなかったのでは、と。

「あの質疑応答で人間性がわかった、って言ってた子が何人かいたよ」

「え、人間性」

おれは性格に、つまり人間性に問題があると言われたやつなのだが。「近所の犬の毒エサ問題が、生徒会の仕事かどうかは別にして、そのことに関心を持つてる人と、『関係ない』って言いきっちゃう人との違いだ」

モリリは大きめのチップスをぱくつと食べてから続けた。

「たとえば、何か相談したとき、光也だったら聞いてくれそう、興味持ってくれそう。でも、亜貴ちゃんや平野くんは、『自分は関係ないから』って言いそう、って判断されたみたいだよ」

「おおーっ」

ヤナギが大きな声を上げた。

「つまり性格がいい悪いは置いて、なんでも首を突っ込もうとする

やつの方がいいってことだな？」

「おまえ！ 言い方！」

光也はたしなめた。たしなめたけれども……にやつと笑ってしまう。性格改善はできなかった。少なくとも自分がいいやつに変わったとは思えない。でも、素の自分の一部だけでもいいと言ってくれる人はいるってことだよな……それはとても心強い。

(注1) 入江市…光也の住む市。

(注2) 秋山葵…光也の同級生。

(注3) 性格分析官…小笠のこと。

問1 〓線部a～cの本文中での意味として最も適切なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a 「まばらな」

- ① 数が少なく間があいている様子
- ② 音が大きく耳ざわりな様子
- ③ 熱心に応援する様子
- ④ 緊張感がただよう様子

b 「その場しのぎで」

- ① 場の空気を読んで
- ② そのときだけをなんとかしようとして
- ③ 意味もなく自信たっぷりの様子で
- ④ らんぼうな言葉づかいで

c 「何食わぬ顔をして」

- ① 不快感をあらわにして
- ② すっかり気落ちした様子で
- ③ 笑みをたやさないようにして
- ④ 何も知らないふりをして

問2 〓線部A「順番に答えてもらいましょう」とありますが、毒入りのエサを食べた犬の事件の対策について、小笠はどのように考えていますか。それについて説明した次の文の

I 〓
く〓 III 〓
空欄内の数字は字数を表しています。(句読点や記号は一字とします。)

生徒会の役目は、
I 十字 ことではなく、
II 十九字 ことであり、事件への対策を行うのであれば、生徒会ではなく
III 十二字 べきであると考えている。

問3 ———線部B「考えていた」とありますが、光也はどのようなことについて考えていたのですか。それについて説明した次の記述の

に当てはまる言葉を、「選ばれる」という言葉を必ず使って自分で考え、四五字以上、五五字以内で埋め、説明を完成させなさい。
(句読点や記号は一字とします。)

光也は、当選するのは小笠か平野のうちおそらく小笠であり、ということについて考えていた。

問4 ———線部C「ついに三年になった」とありますが、三年生の投票が始まってから放課後になるまでの光也の心情の変化を説明したものとし

て最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 落ち着かない様子の小笠を見て、彼女も自分と同じように緊張するのだと意外に思い、そして、自分の当選を信じる選挙管理委員から温かい言葉をかけられ、ふがいなさに胸がしめつけられた。
- ② 三年一組の秋山葵の笑顔を見て、張りつめていた気持ちが一気にゆるみ、そして、ヤナギが投票している様子を見て、自分には心強い味方がいるのだからきつと当選するはずだと前向きになった。
- ③ 自分より先に投票をするヤナギの姿を見て、ここまで協力してくれたことへの感謝の気持ちをいただき、そして、モリリとヤナギのためにも、弱気にならず当選することを信じようと意気込んだ。
- ④ 前を歩く小笠の姿を見ながら、心の中で彼女をねぎらい、そして、投票後に選挙管理委員から事務的な挨拶の言葉をかけられたことをきっかけに、選挙がついに終わったことを実感した。

問5 ———線部D「勝因は『犬』だった」とありますが、具体的にどういうことですか。それについて説明した次の記述のに当てはま

る言葉を自分で考えて、四〇字以上、五〇字以内で埋め、説明を完成させなさい。(句読点や記号は一字とします。)

光也が当選した一因として、立会演説会の質疑応答を見た何人かの生徒が、小笠や平野とは違いののではないかと、人間性を評価したことが挙げられるということ。

問 6 この文章の内容と合っているものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ① 街の人たちに守られていたという意識がある光也には、今度は年を重ねた自分たちが街の治安を守るのがよいという気持ちがあるので、全校生徒の前で小笠や平野に反論されても一切動じることはなかった。
- ② 光也は、生徒会長に選ばれることも、選挙活動を通して性格改善をすることもできなかったが、今度はありのままの自分の良さを周囲の人たちに認めてもらえるように頑張ろうと気を取り直した。
- ③ 光也は、生徒会長選挙への選挙活動に協力してくれたヤナギとモリリに対してきちんとしたお礼を言うことはできなかったが、つたない言い方であっても自分の感謝の気持ちは二人には伝わるはずだと考えた。
- ④ 光也は当選後の打ち上げで、ヤナギから「性格の良し悪しを判断されたのではなく、なんにでも首を突っ込もうとする光也だから当選した」と茶化されたが、当選に舞い上がったため何も言い返さなかった。
- ⑤ 生徒会長選の翌日、光也は学校へ向かう時点ですでに緊張しており、校内放送で自分が当選したと告げられて周囲からの祝福を受けても、すぐには結果を受け入れることができなかった。

